

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風 (東)		
所在地	岐阜県可児市谷戸68番		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193100050-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよ風は、小規模特養と小規模多機能の施設が隣接しており、3施設合同で夏祭りや、認知症カフェ(カフトライアングル)を開催するなど、職員・利用者様・ご家族様の相互交流や、地域の方々にも気軽に交流して頂けるような関係づくりに努めています。地元自治会とは、防災協定を締結しており、災害時には相互に支えあう体制を取り入れています。また、母体が医療法人である為、利用者様の健康管理への助言や、適切な処置などを素早く受け取ることが出来ます。その中で、私達は、利用者様が住み慣れた地域の中で、穏やかにほほえみのある暮らしが出来るよう、日々、より良いケアが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺には田畑が広がり、同一法人の他サービス事業所が隣接している。新型コロナ感染症の影響を受ける前は、地域との交流を積極的に行ないながら、3施設合同で夏祭りや様々な行事を開催していた。現在、行事や地域との交流を休止しているが、コロナ収束後の再開を目指している。職員は、利用者が残存能力を活かし、その人らしく笑顔で生活できるよう、工夫をしながら支援している。地域と防災協定を結び、3施設の防災協力体制も構築され、利用者や家族の安心感につなげている。母体が医療法人であることから、24時間の医療体制で支援し、緊急時の対応及び看取りケアにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者理念を施設内のわかりやすい場所に掲示し、職員はその理念を共有し、利用者に寄り添い、気づき、考える介護に努め、その人らしい生活の支援ができていないか、職員会議などで振り返り実践に繋げている。	法人の理念「寄り添い、気づき、考える」を、職員がいつでも確認できるパンフレットや玄関等に掲示している。職員は、利用者に寄り添う中で、日々の気づきを大切に、申し送り時や会議で話し合いながらケアプランに活かし、支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会と、防災協定を締結しており、非常時には相互に支え合う関係として位置付けられている。認知症カフェ開催、老人会運動会、地域の防災訓練など交流しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、中止となっている。	自治会に加入し、地域と防災協定を結んでいる。新型コロナウイルス感染拡大以前は、公民館行事や祭等の地域のイベントに参加し、小学生やボランティアの訪問、認知症カフェ開催等があったが、今年度は中止している。収束後には、再開を目指している。高校生の職業体験は実施し、利用者が喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度までは、地域の小学生の見学を受け入れたり、認知症カフェを開催するなどして、地域の方への認知症への理解をして頂く活動を行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染対策の為、短時間の職業体験のみ受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、隣接の小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。今年度は3月より、新型コロナウイルス感染対策の為、サービス活動報告書やそよ風だより等会議資料を送付後、会議構成メンバーより意見聴取する形式を取らせて頂き、サービスに対する助言や情報を得ている。	新型コロナウイルスの影響を受ける前は、利用者・家族、行政、地元住民等が参加し、運営推進会議を開催していたが、今年度は、感染予防対策として書面会議とした。資料を送付してメンバーから意見を聞き、聴取内容をまとめて議事録を作成している。今後は行政の指示に従って開催を検討する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可児市の介護保険課や、地域包括支援センターとは、運営推進会議を通してサービスの取り組みを定期的に報告している。今年度は新型コロナウイルス感染対策の為中止しているが、認知症カフェの開催には、地域包括支援センターからの助言や協力を頂いている	市の介護保険課や地域包括支援センターとは日頃から情報交換し、困難事例や法改正等について助言を得ている。また、認知症カフェや運営については、地域包括支援センターから協力を得ている。行政主催の多職種連携交流会やグループホーム交流会、研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修や、年次計画の中で、職員は定期的に身体拘束について研修する機会を持ち、正しく理解できるように努めている。3ヶ月に1回、身体拘束の為の対策検討委員会を設け、施設においての身体拘束について玄関の施錠を含めて検討している。また、その結果については職員に周知徹底を図っている。	身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、対応方針や適正化に向けて話し合っている。職員はその結果を共有し、スピーチロックも含めて身体拘束をしないケアを目指している。やむを得ず拘束をする場合は、家族の同意を得て、対応方法を話し合いながら、本当に拘束が必要かを検討している。現在、身体拘束はゼロである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修や、年次計画の中で、職員は定期的に身体拘束について研修する機会を持ち、正しく理解できるように努めている。職員は利用者の心身の状態・ケアの状況に常に注意を払い、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年次計画の中で、職員は権利擁護に関する制度について定期的に学ぶ機会を持ち、職員が制度を正しく理解出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、利用者・ご家族様に重要事項説明書・利用契約書などを十分に説明し、理解を頂く様に努めている。改定の際には、事前に家族に改定内容を説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、新型コロナ感染対策の為、家族会(年3回)、合同家族意見交流会(年1回)の開催は中止し、面会も制限させて頂いているが、ご家族の訪問時には、気軽にご家族からの意見や要望が伝えられる雰囲気づくりに努めている。	以前は、家族の訪問が多く、訪問時や家族会での交流時に要望や意見を聞いていた。今年度は、感染予防のため、会合等を自粛し、家族の面会も15分に制限している。ホーム便りには利用者の日常生活や行事の写真と共に、個別メッセージを送り、家族とのコミュニケーションを図っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日々の勤務の中で、職員からの意見や提案が出しやすい環境を作り、業務改善や職員が働きやすい環境につながるように努めている。代表者も職員と個別に面談する機会を設けるなどして、職員の意見や提案を運営に反映させている。	管理者も現場に入り、日常的に職員の意見や要望を聞いている。それらの意見や提案を受け止め、代表が出席するケア会議で検討している。調理専門職員の雇用も職員意見の反映結果である。職員休憩室には「意見・アイデアBOX」を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に反映できる様、職員の実績、勤務状況、介護に必要な資格・有給休暇の取得状況などを把握するよう努め、キャリアアップのための研修参加を促すなど、職員に働きかけ、職員の職場環境、条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は業務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を確保されている。職員は、お互いにスキルアップ出来るように、職員会議で研修報告を行い、情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携研修や、グループホーム交流会などに参加して、経験や、職種に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様がご家族・新しい環境に早く馴染めるように、ご家族・関係者などから生活歴・生活環境・既往歴などの情報収集に努めている。事前面談時には、ご本人の言葉に出せない思いも引き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時などに、ご本人・ご家族の困っていること、入所に際しての不安なこと・要望を傾聴し、ご本人が安心して過ごして頂けるための必要な支援が提案できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、新しい環境に早く馴染まれ様に短期ケアプランを作成し、利用者様・ご家族の思いを取り入れた段階的な支援をして行く様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・掃除・洗濯物片付けなど利用者様が出来ることは役割分担として手伝って頂いている。また、季節の行事や、地域の習わしなどを利用者様に教えて頂くなど、暮らしを支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、家族会・運営推進会議への参加や、かかりつけ医への受診などの協力をして頂いている。家族会では、外出などの外出支援を一緒にして頂くなど、職員とも交流を持ち共に利用者様を支え合う関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナ感染対策の為、面会や外出の制限はあるが、面会時には短時間でも楽しく過ごして頂けるよう配慮している。かかりつけ医への受診時のご家族の協力や、レクとして利用者様の馴染みの場所へのドライブなどに出掛けて頂くなどの支援もしている。	現在、家族との面会は15分とし、2人までに制限している。また、感染予防対策をした上で、利用者と職員が、自宅近辺へドライブに出かけたり、全員でマイクロバスの車中から、市役所や可児駅、神社等の市内観光を楽しむなどしている。年賀状や季節の挨拶はがき等のやり取りで、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性については、職員間での申し送りや、記録などで情報を共有している。食事や、レク、くつろぎの時間など、利用者様一人ひとりが共に生活が楽しめるよう配慮し、支え合うような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人・ご家族の経過をフォローできる様、必要に応じて、これまでのケアの工夫など助言するなど関係者との連携を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様一人ひとりとの会話や、普段の行動などから、利用者様の思いや訴えを把握するように努めている。意思疎通が困難な利用者様には、その表情や、仕草などから思いを汲み取るように努めている。職員同士気づきを共有し、利用者本位のケアに努めている。	利用者との会話や様子から、思いや意向をくみ取り、それらを連絡ノートに記録している。新たに知り得た情報は職員間で共有し、日々のケアに繋げている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草から推測している。利用者の重い湯呑みを軽いものに変更するなど、細かな点まで話し合っって対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は、ご家族・前利用施設・担当ケアマネなどからの情報収集に努めている。サービス開始後は、利用者様、ご家族との会話などから、利用者様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録・排泄チェック表などの記録を活用し、利用者様一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握して行くよう努めている。また、利用者様が出来ることにも視点を向けたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族の思い、要望などは、日常の会話や面会時にお聞きして、本人がより良く暮らすための介護計画作成に繋げるよう努めている。また、医療関係者からの、利用者様の心身状態に合わせた助言も取り入れながら、職員会議で随時介護計画を見直している。	介護計画は、利用者・家族の意向を確認し、医療関係者の意見を参考にしながら、ケア会議で話し合っている。家族からはケアプランの説明時に意見が出てくることが多く、それを次のプランに反映している。利用者の状態に変化があった時には、柔軟に見直しをしている。	介護計画は家族から事前に意見を聞いて作成しているが、現在、直接、顔を合わせて話し合うことは難しい状況である。今後は、家族と一緒に介護計画を作成できるように、参加しやすい日程を工夫し、チームでの介護計画作りを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用して、日々の利用者様の心身状態・ケアでの気づきなどの情報を職員間で共有し、ケアの工夫や実践につなげ、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、個別の物品の購入を支援したり、水分摂取量・食事摂取量の少ない利用者様への個別の対応など、その時々柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為に中止しているが、地域の地区センターや文化ホールなどの行事に出掛けたり、利用者様の作品を展示する機会を設けて頂いたりしている。地域資源を活用して、利用者様が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。また、専門医への受診は、ご家族に協力して頂いている。月2回訪問診療や、看護師の訪問も定期的であり、受診時には、かかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時にかかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。協力医の往診は月2回ある。職員として看護師の配置もあり、歯科医の訪問もある。従来のかかりつけ医や専門医への受診は家族が同行している。緊急時には、協力医による24時間の医療連携で利用者の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の心身状態の変化を早い段階で法人内の看護師に伝えて相談することが出来、利用者様が早期に適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある医療機関とは日頃より相談員との関係づくりに努めている。入退院時には、ご家族の了解を得て、病院関係者との情報交換や連携に努め、安心して治療でき、早期に退院できる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時から、重度化や終末期に向けた思いをお聞きして、看取りの指針についても説明している。重度化した場合は、早い段階でご家族や医療関係者と共に施設で出来ることを十分に話し合っている。終末期においては、医師と相談し、ご家族の希望に添えるようチームで支援している。	契約時に、重度化した場合や終末期の方針について利用者・家族に説明している。利用者の状態が変化した場合は、家族と医師を交えて話し合い、方針を共有している。職員は、看護師との勉強会で看取りについて学び、利用者が慣れ親しんだ場所で、その人らしく最期を迎えられるよう、チームとなって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、消防署の救命救急講習に参加する機会が設けられている。また、職員会議において、定期的に事故発生時の応急手当や初期対応の方法などを勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っている。隣接した3施設で、合同の非常時の緊急連絡体制、救助体制、避難経路などをマニュアル化しており、土砂災害発生時の合同避難確保訓練も行っている。地元自治会とは防災協定を締結しており、非常時に支え合う協力体制を築いている。	年2回、隣接する3施設合同で避難訓練を行っている。洪水や停電時についても法人で対策を検討し、連絡網の確認、救助体制、避難誘導等のマニュアルの見直しを行い、備蓄も3日分を確保している。地元自治会と防災協定を結び、災害時における地域住民の避難待機所にもなっている。停電時は発電機がある隣接施設へ避難することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修などを通して、職員はプライバシー保護について定期的に勉強している。利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮し、ホワイトボードやジェスチャーなど用いて、わかりやすく、さりげない声掛けやケアに努めている。	職員は、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねない対応、スピーチロックについても研修で学んでいる。今までの経験を活かして知恵を出し合い、トイレにカーテンを付けたり、ジェスチャーやホワイトボードを活用して利用者の思いを受け止めるなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の中で利用者様の思いを傾聴するように努め、言葉以外にも表情や仕草などからも思いや希望に気づくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けを行いながら、一人ひとりのペースを大切にし、心身に負担無くその人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力して頂き、その人らしい季節に応じたおしゃれを施設でも楽しんで頂けるよう支援している。また、訪問理容を利用して希望に沿ったヘアカットが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・台拭きなど、利用者様一人ひとりが出来る事を毎食後お手伝いして頂いている。月に一度希望献立の日を設け、利用者様の希望や季節の行事を取り入れた食事を楽しんで頂く様にしている。また、おやつも利用者様のお誕生日や、行事に合わせて利用者様と一緒に工夫している。	朝食と夕食は手作りで、昼食は隣接施設の配食を利用している。利用者は、配膳や片づけを生き生きと手伝っている。希望献立の日を設け、寿司のテイクアウトを利用したり、一緒におやつ作りをするなど、食の楽しみを広げている。スプーンや箸を使って、自分で食べられるよう、状態に応じた刻み食やミキサー食で提供し、美味しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療関係者や管理栄養士などと連携を図り、食事摂取量・水分摂取量・体重の増減など利用者一人一人の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の脱着・洗浄・口腔内の衛生管理等の介助も行っている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。自立度や心身の状況、安全面など配慮しながら、トイレでの排泄が安心して出来るよう声掛けや誘導の支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄を目標に支援している。夜間は、状態に応じて、パッドやポータブルトイレ使用などを組み合わせ、出来るだけ、おむつは使用しないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、身体を使うレクなどに参加して頂くよう働きかけをしている。スムーズな排便リズムが出来るよう、水分摂取の声掛けや、朝、牛乳を提供する等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に配慮しながら、一人ひとりのお好みの順序・湯温・湯量で入浴して頂けるよう支援している。状態に応じて、一般浴、機械浴、シャワー浴、清拭、足浴など個々に沿った支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、檜の浴槽と機械浴の設備がある。体調や希望を配慮しながら、ゆっくりと安心して入浴できるよう、職員が1対1で介助している。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯も楽しめるよう工夫している。利用者の状態によっては、シャワー浴や清拭等で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中は出来る限り活動的に過ごすようにして頂くように支援しているが、一人ひとりの状況に応じて、入浴後・食後・外出後の休息を声掛けする等の配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明書については、処方箋のファイルを作成して情報の共有をしている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度申し送り、きろくをして、周知徹底を図っている。与薬の担当者は、服薬終わるまで毎回確認し、記録にチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・カラオケ・裁縫・折り紙など、一人ひとりに合わせた役割・楽しみごとに参加して頂いている。また、季節の行事や誕生会などに、ビールや梅酒など提供し気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナ感染対策の為、外出はかなり制限された為、体調や天候に配慮しながら施設周辺の散歩をしたり、レクとして1時間程度のお花見ドライブ、道の駅までのドライブを楽しんで頂いたりして外出支援をしている。	以前は散歩や買い物、喫茶店、地域行事参加などの外出支援をしていたが、現在は、感染予防の為、外出を自粛中である。花の水やりや野菜の収穫、屋外でお茶をしたり、敷地内を散歩している。また、自宅近辺へのドライブや市内観光をする等、工夫をしながら外気に触れられるよう支援している。	現在、コロナ禍であることから、外出も難しく家族の訪問も制限され、利用者への影響が懸念されている。様々な工夫を重ねているが、利用者の機能維持と気分転換のために、さらなる支援の工夫に期待したい。

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。個別外出時には、思い思いの品を購入されたりしている。個人の預り金については、ご家族に月に一度は用途を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中はがきや年賀状など、季節のお便りは、自筆で出して頂くなどの支援をしている。また、携帯電話の使用や、家族や知人からの電話の取次ぎもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、利用者様と共に作成したカレンダーの飾りや、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙などの月毎の作品を掲示し、季節を感じて頂けるようにしている。日中は、居間のソファや食席などでゆっくりとくつろいで過ごして頂いており、食事中などは、穏やかな音楽を流すなど居心地良く過ごして頂くよう工夫している。	居間はユニット合同で行事が出来る広さがあり、清潔感がある。ユニット間の仕切りは必要に応じて開放できる。ソファや食卓も大きく、ゆったりしている。加湿機能付き空気清浄機も複数設置されている。壁には干支のちぎり絵や利用者の作品が飾られている。畳コーナーは、利用者の寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で、ソファや食席で談笑されたり、隣のユニットの馴染みの方とお話されたり、その人に会った居場所を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族と相談しながら、テーブル・ソファ・TV・タンスなど思い思いの家具や小物が利用者様の安全面を配慮して置かれている。また、利用者様の手作りの作品や思い出の写真なども見やすく飾って、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室には洗面台、ベッド、クローゼット、エアコン、換気扇があり、整理整頓され、安全な空間になっている。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、小物や家族の写真などを飾っている。残存能力を活かして掃除を行う利用者もある。各ユニットに一部屋、畳の部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの心身状態に常に気を配り、不安や混乱が生じないように安全で自立した生活が出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風 (西)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番地		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として 寄りそう介護、気づきの介護、考える介護を掲げている。日々のサービスに活かす為、受付 玄関に掲示し、意識する様にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生との交流、高齢者対象の運動会 認知症カフェ 自治会の避難訓練など参加し、地域の一員として交流を図っている。今年はコロナ感染対策の為、地域との交流は中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設合同夏祭り、認知症カフェ、小学生の見学を通じて地域の方と触れ合う機会を設け、認知症の人の理解を深めて頂けるよう努めている 今年にはコロナ感染対策の為、行っていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回隣接の小規模多機能と合同で会議を開催している。サービス活動報告書をもとに活動内容を説明し 意見等頂いている。今年3月よりコロナ感染対策の為、活動報告書等 書面にて確認して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課担当者、地域包括職員には、運営推進会議に参加して頂き、施設の取り組みを説明し、ご意見等頂く協力関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は定期的に研修を行い、正しく理解出来るよう努めている。3ヶ月に1回身体的拘束等適正化委員会を開催し玄関の施錠を含めて検討している。その結果については職員に、ケア会議にて周知徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化委員会での 現状と改善点などを、職員全員で検討し 虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて定期的に学ぶ機会をもち、職員は勉強し理解を深めている。成年後見制度が必要と思われる方への活用を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は利用者、家族等に、ゆっくりと分かりやすく具体例を挙げ、理解を図っている。改定時には、事前に改定内容を説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会など意見 要望を聞ける機会をもうけている。面会時など気軽に職員に伝えられる雰囲気づくりに努めている。お便りで近況を報告し、意見や要望を気軽に職員に伝えられる関係作りにつとめている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に運営者も参加しており、職員の意見に耳を傾け、時にはアドバイスを頂いている。日常の勤務の中で、職員が気になることがあれば、個別にて話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心が持てるよう研修等参加を促している。ケア会議など現場に顔をだし、職員個別に対応し意見を聞き、職場環境 条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、勤務時間内に法人内外の研修に参加する機会が設けられている。また、互いのスキルアップの為、ケア会議内で研修報告を行い、職員全員が学べる場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会 認知症サポーターステップアップ講座に参加し活動、問題点など話し合い情報交換しサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活により早く馴染んで頂けるよう、家族や関連機関等から情報収集に努め、情報等活かしながら、コミュニケーションをとり安心感を与え、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、ゆっくりお話しをする時間を設け、見学しながら本人やご家族様の不安等を傾聴することに心がけている。観察、会話等から必要なサービスを見極め、こちらからも現状をお聞きしたり、最善のサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の思いを再確認し、まずは生活に慣れて頂くことからケアプランを短期間の目標設定として作成導入し、必要に応じて段階的に支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事や洗濯物を干す畳む等できることを役割分担し、手伝って頂いている。利用者より、四季折々の行事や地域の習わし等教えて頂き、おはぎ作りや五平餅作など共に行う事により、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、日頃から面会時の会話を大切にしている。運営推進会議への参加や通院の付き添いを協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの飲食店、美容院など、ご家族様と外出を楽しまれたり、利用者様がご家族へ宛てた葉書(年賀状含む)をお送りしたり、馴染みの人や場所との関係を途切れさせないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性に配慮し、食事やレクリエーション等、職員も間へ入り誰もが孤立することなく、多くの会話を楽しみ関わりを持てるよう工夫をしている。役割分担も皆様が気持ち良くお手伝いをして頂けるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動にて契約終了後も、お見舞い等必要に応じて行い、本人とご家族様に経過をフォローできるように、関係者との連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や表情から思いや訴えの把握に努めている。意思疎通が困難な方には、表情や仕草の観察をより重点的に行い、ご本人様の気持ちの汲み取りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から、これまでの生活歴や趣味、得意だったことを情報収集し、また、ご家族様からも生活の様子や内面等お聞きし、レクリエーションに取り入れたりして、有する力を発揮しながら自分らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録等情報を活用し、利用者一人ひとりの生活リズムを把握理解し、基本とした上で出来る事への参加を促し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人 ご家族様の要望や気持ちを確認し ケア会議で職員同士が意見交換を行い、ケアプランの作成に努めている。、医療関係者からは、利用者様の心身状態に合わせた助言を取り入れ、ケアプランの見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、食事、排泄等の身体的状況、本人の言葉や職員の気付き等を記載し、職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。また、特変があった場合には、別の記録用紙を用意し、医療連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に応じて、受診が必要な方の支援、個別の必要物品の検討や購入、ミキサー食への変更、食事の席は利用者様の状況に応じて席替えなども検討するなど その時々柔軟な支援に努めている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェ 高齢者対象運動会など個別支援で出かける等、利用者様が地域で楽しみのある豊かな生活を営めるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。かかりつけ医と連携を図り、必要な医療を受けれるよう支援している。また、定期的に歯科訪問診療に来て頂いたり、法人の協力医とも連携体制を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、日頃の健康管理や医療面の相談、助言を頂き、支援に繋げている。状態に変化がある時は、看護師に報告し適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは、日頃より関係を取っており、入退院時には、病院の生活相談員や担当看護師と連携をとり、円滑に日常生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会の場で、終末期に向けたご家族様の思いをお聞きし、施設で出来ることの説明と質疑応答を行っている。重度化した場合には、ご家族様や医療関係者と施設で出来ることを密に話し合い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急講習に定期的に参加する機会がある。定期的に事故発生時対応、救命救急法など、ホーム内研修を行い 実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、消防署の協力を得て、通報、誘導、消火器の使用法等の訓練を行っている。地域の防災訓練に代表の職員と利用者様で参加し、実際に施設から公民館までの避難経路を歩き、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修にて、プライバシー保護について学びを深め再確認し、利用者様の気持ちに寄り添い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や傾聴などから、思いや希望を汲み取り、自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、時間や空間の共有を持てるよう、支援に取り組んでいる。フロアでの過ごし方、静臥される等それぞれの自由な生活を、見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、ご本人様が洋服を選び、宝飾品お化粧品等々のおしゃれを楽しんで頂けるよう支援をしている。関心がない方も、おしゃれが出来るよう職員と一緒に考え支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや配膳、食後の片付けを職員と共に行っている。ホールに献立表を掲示し、食事に関心を持って頂いている。また、月に一度、希望献立の日を設け食事を楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半年ごと栄養スクリーニングし、個々の栄養状態のリスクの確認を行っている。食事量、水分摂取量、体重増減等常に注意し、食事量の調節をしたり、食べやすい形態にしたり好みの飲料の提供など必要に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立度に応じて支援している。歯磨きによる口腔ケアが困難な場合には、口腔ウェットティッシュなどを用いて清潔保持に努めている。また、必要とする方には、定期的に訪問歯科の往診にて口腔ケアをして頂いている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各々の排泄リズムの把握にて、時間で声掛け誘導を行い、トイレにて排泄できるよう支援している。夜間も心身状態に配慮しながら、声掛け誘導をし、排泄の失敗を減らし、自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、体を使ったレクへの参加 食事量など考慮し、スムーズな排便のリズムができるよう支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調、各々の心身状態に配慮をしながら、好みの湯温で入浴して頂けるように順番を考え、一対一の介助でゆっくりと入浴して頂けるよう支援をしている。それ以外にも希望があれば柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具の使用 安眠できる室温調節、明かりの調節など気を配っている。1人ひとり心身状態に応じ、日中の活動に参加して頂けるよう声掛けをし、昼夜逆転せず夜間良眠できいるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員が内容を理解し与薬確認をしている。薬の変更や臨時薬については、その都度記録に残し、申し送り表の記入も徹底して行き、全職員に周知すると共に、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や個々の能力に応じて、家事や裁縫、書き物 レクなど1人ひとりに合わせた役割 楽しみ事に参加して頂いている。また、日常の散歩、季節の行事等の計画を立て、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日など近隣の散歩や、ドライブ等ご本人様の希望に沿えるよう支援に努めている。また、家族会にて一緒に外出や食事の支援も行っている。今年はコロナ感染対策の為行ってません		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望や力に応じて、安心や満足に向けて所持金を持って頂けるようご家族様と相談し、支援をしている。事務所が金銭管理をしているが、外出時にはご本人様のお金を所持し、本人にお支払いして頂けるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話への対応や親族宛の葉書(年賀状含む)の郵送等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、利用者様に四季の作品を作成して頂き、掲示したものを鑑賞している。また、希望献立でも季節を感じて頂けるメニューを考案し、家庭的雰囲気を味わって頂けるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食席に配慮し、利用者様同士楽しくくつろげる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、思い出の品等を本人やご家族様と相談しながら持ち込み、配置している。危険が伴う場合には、その都度検討し、居心地良く過ごせるよう支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全な環境で生活が送れるよう、トイレ 居室など必要に応じて貼り紙目印をつけ、不安や混乱が生じないように配慮している。利用者様の動線に転倒リスクがないか配慮し自立した生活が送れるよう支援している。		